

## 「中央アジアの結節点パミール」－自然と暮らし、歴史－

本多海太郎

パミール中央アジア研究会事務局長、玄奘福舎主宰

### 1. 何故パミールなのか

- 探検と冒険の時代へのあこがれ……白水社出版の中央アジア探検ものがきっかけ。
- 不本意な学生時代への鬱憤晴らし……専攻に中国史を選んだが、中国は簡単には入れない、文革の時代。文献からのアプローチは碩学の先生達が網羅的に調査済み。
- アフガニスタン旅行で中央アジアに「目覚める」。イスラムに興味を抱く……すぐにソ連のアフガニスタン侵攻でここも入れなくなり、隣のパキスタンへ転換。National Geographic の Wakhan の写真
- 定年退職後、時間が出来る。G.G.社を見つける。
- 念願のワハンに入れた！ Zor-kur 北岸へ すっかりパミールにとりつかれる。  
タジク7回、パミール6回、訪問。

### 2. 旅行の形態

旅行のインフラが、ない。ガイドは、現地雇い。  
交通手段は、チャータージープ。  
宿泊……ゲストハウス・民宿・ユルト。温泉は豊富。



### 3. 何を見たのか

- 交通路の再確認……歴史的、探検家、学者達の足跡 / 民族大移動の道 貿易の道 戦争の道
- 遺跡、岩絵、地表構築物
- 変化を見る目としての歴史……ソ連崩壊後、中央アジアの最貧国へ。中国の台頭、新グレート・ゲーム時代、資源の草刈り場、一带一路（上海協力機構などが元）、新しい道路、隧道、鉱山開発、国土切り売り？ 新グレート・ゲーム……従来の南北一英露にかわって、東西一米口、さらに中口の時代へ。アフガニスタンと約1000キロに亘って国境を接するがための、負担……民族・麻薬・I S。
- 動物好きの視点から
  - ・遊牧（移牧）の現状
  - ・パミール東部では、まったく穀物・野菜は出来ない。
  - ・食べ物は、毎日、堅いパンとヨーグルトからチーズまでの乳製品のみ。
  - ・オオカミ・雪豹からマルコポーロシープまで、野性動物は豊富。

### 4. 希望（将来展望）

旧ソ連の遺産……教育、女性の活躍？の価値を知っている。  
観光資源豊富……秘境らしさ、高山、砂漠、希少動物、高所訓練場所  
地下資源……水（水力発電）・鉱物資源

